

轟 とどろ

平成23年2月25日

2月号

動画をもとにした学校長のお話



7日(月)に動画を用いて「世界に一つだけの花」、24日(木)に「トイレの神様」について話をしました。いずれも幸せを掴んでいくためには、人との違いをプラスに捉えること。そして汚い所や散らかっている所には貧乏神が住みつき、きれいに掃除したり片付けてある所には、幸せの神様が住みつくことを祖母から聞いたことを伝えました。

授業力を高めるための研究授業を実施



2日(水)に3・4年生の研究授業を行いました。事前に練り上げた授業プランを検討しあった上で実際に授業を行い、その授業のあり方はどうであったのかという研究会を行います。子どもにとって分かりやすかったか、確かに理解したかなどいろんな角度から話し合わせ授業力アップにつなげています。

高学年の発表

23日(水)には、高学年の学習発表を行いました。「失われた歌」「メヌエット」の縦笛での輪唱は綺麗に体育館に響きわたりました。また、楽しく英語活動に取り組んでいることを披露するため、みんなが知っている「大きなかぶ」の話が全て英語で進み、いつの間にか全員が主役に引っ張り出されていました。八小では、人前で発表する機会を増やし度胸と自信につながる活動を進めています。



正門前道路の除雪をみんなで

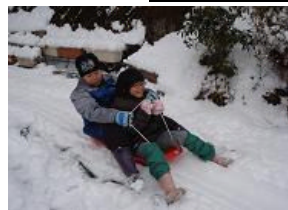
9日(水)の昼休み時間に子ども達と教職員で正門前道路の除雪を行いました。年末から大雪が降り積もり、なかなか雪も溶けないまま夜間の冷え込みで一面氷になっていました。付近は北面で急な下り坂カーブになっているため登下校でも滑ったり転んだりしました。車も滑って危険な状況から、この活動となりました。



校長コラム

「何か一つでもいい。走りをほめるのが一番だが、そういかない場合もある。そんなとき何でもいから、とにかくほめる。選手とのつき合いはここから始まると言っても過言ではない。ほめられていやな人間はいない。一度ほめられれば、またほめられたいと一生懸命になる。そういうものだ。それで心が一步近づくのだ。」これは、オリンピックで有森裕子や高橋尚子などメダリストを育てた小出監督の言葉である。人は忙しさからか気づかないうちに苛立ったり、文句を言ったりしがちである。保護者も先生も子どもを育てるといふ点では同じ。小出監督のように、その子の持っている能力を最大限に伸ばしてやるのが大切で、その一番のポイントは「ほめること」である。少々の失敗には目をつむり、子どもをほめることで自信とやる気を出させれば、何倍もの実力を発揮する。事実、学習面やスポーツ面でも保護者や指導者から日常的にほめられている子どもは、表情が豊かで生き生きとしている。反対に大人から、いやみやけなされる言動を受けている子どもは、萎縮し自分を出せない・出そうとしない。同じ実力を持っていても関わる者がほめるかほめないかで伸びる率が全く違ってくるのだ。(今日、ほめたかな。)と毎日振り返ることが大切である。もっと地域全体で大人も子どももお互いに人をほめ合う風土を一層広げていかなければならない。

大雪でも子ども達は元気そのもの



年末から記録的な豪雪が続き、雪も氷となって全く溶けない日が続きました。溶けかかっていた所に12日からの大雪で元どおり一面の銀世界。大人はちぢこまる中で子ども達は道路横の急斜面をソリで滑るなどいっぱい汗をかいて元気に遊んでいました。

五家荘ビンゴ大会を実施



18日(金)の八小タイムは児童会が主催しました五家荘ビンゴ大会でした。まず下級生は五家荘に関係のある施設名や動植物などの一覧表からマス目に自由に選んで書き込み、5・6年生がくじを引いたものの名前と同じだった場合には自分のシートに○を付けていくものです。くじが引かれるたびに子ども達は大喜び。「リーチ!ビンゴ!」などと声を張り上げていました。ふるさと五家荘を題材にしたビンゴゲームにはとても感心しました。

五家荘いちょうを植樹

24日(木)に八代地域振興局および森林巡視員の方のご協力で、五家荘いちょうの苗を植樹しました。体育館でお互いに顔合わせした後で、「年輪の話」についての話を聞きました。続いて運動場西側ネット下の斜面に巡視員さんが除伐・穴掘り・施肥の準備をいただいた所に、杉本山廣さんからいただいた五家荘いちょうの苗11本を植えました。松本均さんを初めとする巡視員さん方とペアになって、一緒に仲良く活動している姿は微笑ましく思えました。振興局と一体となって八小の子ども達に木々に関する色々な活動を頭と体を使って本物の体験を進めています。

